

発達・教育相談室の役割と課題

地域対話型発達相談を目指して

発達・教育相談室室長

市川奈緒子

〈はじめに：発達・教育相談室とは？〉

今年の7月1日、地域・交流研究センターの中に作られた専門相談施設、発達・教育相談室が開室しました。これまで、学内で何人かの教員が関わりながらおこなってきました相談支援という形の地域連携を担う施設です。この稿では、発達・教育相談室が目指すものと今後の課題についてお伝えしたいと思います。

〈発達・教育相談室の目指すもの〉

白梅学園大学は、これまでも地域のかたがたに支え

られつつ、子どもに関わるさまざまな分野で、大学における学問・研究と地域活動との相互性・有用性あるつながりを模索してきました。発達・教育相談室は、発達相談という分野でこのことを追究するために作られました。相談室のコンセプト「地域対話型発達相談」は次のような内容を意味するものです。

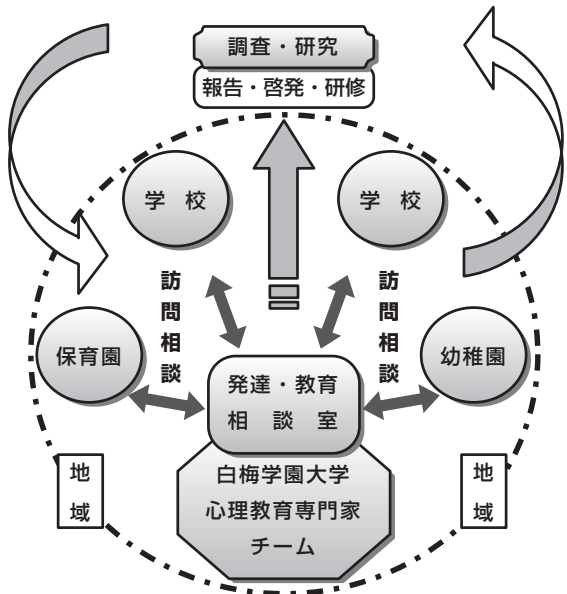
1) ニーズに合わせて、小平市を中心としたエリアの幼稚園・保育園・小学校へ相談員が訪問し、「気になる子ども」を観察します。その際、子どもの視点、保護者の視点、スタッフの視点等、多

角的に問題状況を分析し、その結果を共有するために報告書を作成します。必要な場合には、子どもと保護者に相談室に来室していただき、子どもの発達のアセスメントをおこない、保護者のご相談に応じます。

2) そうした活動に合わせて、地域の関係機関と専門家のニーズについて調査し、このエリアのニーズは何か、さらにはなぜそれがニーズとなつて顕在化しているのかということを分析し、それに対する現在のリソースと、今後必要となる活動・支援や連携は何かを考えます。その結果を、このエリアでおこなっている連携会議や、大学の勉強会等を通して、地域の専門家や住民のみなさんと共有します。

3) 大学が主催して、地域の専門家の交流の場・研修の場を設けます。具体的には、事例を通しての研究会や発達相談にまつわるテーマの研修会をおこない、地域の専門家同士が地域全体を知り、お互いに学び合える機会を提供します。

4) 以上の活動を通して、地域が自律的に地域として成長していくこと、それとともに大学もまた、研究テーマを広げ、学問・研究の地域での活かし方を学ぶことを目指します。



〈現在の発達・教育相談室の取り組み〉

以上の目的で作られた発達・教育相談室ですが、現在は地域の関係機関のかたがたに相談室を知っていたかどうかとともに、地域のかたがたがどのようなニーズを持つておられるのかを調査している段階です。相談員が小平市内の29の保育園・幼稚園をまわり、①現在困っていること ②研修会で取り上げてほしいテーマに

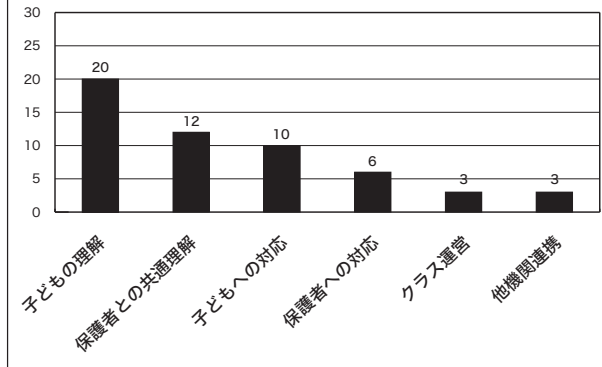
ついでご意見をいただきました。そして、7月22日夜には、発達・教育相談室が主催して、地域の関係機関向けの第1回の勉強会「気になる子への対応と保護者支援」を開催しました。保育園・幼稚園の先生方が8園24名参加してくださいました。前半、市川がテーマにある内容について話したあと、後半に交流会をおこないました。交流会では、おひとりおひとりが講演の感想や今悩んでいることをお話くださいました。その勉強会で報告させていただきましたが、上記の29の保育園・幼稚園のかたがたに聞き取り調査した結果を、ここで簡単に記していきます。

〈小平市の保育園・幼稚園のニーズ 聞き取り調査報告〉

①困っていることの内容については

- ・子どもが多動になるのは、生まれつきか環境要因か
- ・我慢できない、待てない子どもが多くなっている
- ・年少クラスで気になる子どもへの対応
- ・集団から外れてしまう子どもへの対応
- ・クラスに複数の気になる子どもがいる場合のクラス運営
- ・補助の保育者との関係

園への聞き取り結果



- ・子どもの発達の問題を保護者にどう伝えるか
- ・育児困難の保護者への対応
- ・専門機関とどのように連携すればよいのか
- ・小学校との連携について。保育要録をどのように書けば伝わるのか。書けないことをどのようにすればよいのか 等

②研修会で取り上げてほしいテーマ

- ・ 気になる子の見極め方
- ・ 気になる子とその他の子との関わり
- ・ 気になる子のいるクラスの運営
- ・ 保護者の心を開かせることは
- ・ 精神的な問題を抱える保護者への対応
- ・ ハンディを持つ子どもの保護者とその他の保護者とのコミュニケーション

等、上記の困っていることの内容はほとんどが研修会のテーマとしても挙がってきました。

以上のように、気になる子どもの存在や対応だけでなく、その子を含むクラス運営やほかの子どもの関係、さらには保護者支援や保護者同士の関係、小学校や専門機関との連携等、出された悩みは多岐にわたっていました。つまり保育園・幼稚園の業務と活動は、幼児期の保育・教育にとどまらず、家族支援、地域支援に及ぶのです。そのため、保育園・幼稚園という存在は、子どもにとっても家族にとっても地域にとっても非常に大きいということがよく理解できます。

〈おわりに…地域のかたがたとともに〉

今回、発達・教育相談室の開室にあたりまして、私

たちスタッフは、保育園・幼稚園だけでなく、関係機関や行政のかたがたをお訪ねして、ご挨拶させていただきながら、今現在の問題と思われることについてお聞きしました。そして、それぞれのお立場で問題と支援について熱く語られるかたがたから「小平」という地域を教えてくださいました。私たちもまた、この地域の養育力の一翼となれますよう、ともに歩んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、お忙しい中、地域について教えていただきました関係機関のかたがた、調査に快く協力していただきましたり、勉強会に参加していただきました先生方に厚く御礼申し上げます。

発達・教育相談室

室 長・市川奈緒子(白梅学園大学子ども学部)

相談員・五十嵐元子(白梅学園大学子ども学部)

【開室曜日と時間】

月・火・木・土 午前10時～午後4時

【問い合わせ先】

電話 / ファックス : 042-348-2008

